

県内LED化完了

歩行者用信号5904基

全国初リリースで交換早める

徳島県と県警は25日、全国の都道府県で初めて歩行者用信号機の完全LED化を達成した。初期投資を抑えられるリリース方式を採用して交換を早め、7月に入って2481基の電球を一気に取り換えた。

県内の歩行者用信号機は5904基。県などはLED電球の層の節電が求められる中、残る04基。県などはLED電球の層の節電が求められる中、残る04基。県などはLED電球の層の節電が求められる中、残る04基。県などはLED電球の層の節電が求められる中、残る04基。



LED電球に交換される歩行者用信号機—徳島市北沖洲3

め、負担を複数年にわたって平準化できるリリースでLED電球を調達することを決定。県警は月150万円を5年間支払う契約を松山市の業者と5月に結んだ。

この日、飯泉嘉門知事が最後まで残っていた徳島市北沖洲3の電球を交換した。

LED電球は、09年に県警と日本フネン(吉野川市)、県立工業技術センターが共同開発した。既存の信号機の白熱電球を取り換えるだけでLED化できる上、点滅時の光がくっきりしていて、歩行者が見やすい特徴がある。県警の試算によると、LED化の完了で電気代や維持費が削減でき、年間約800万円を節約できる。(宮本真)